

本年度の学校評価

<p>2年度の重点目標</p>	<p>①社会の動向や教育界の動きを視野に入れて、時代に対応した教育活動を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通コース及び国際理解コースの教育内容の一層の充実に努め、グローバル化、情報化等の社会の変化に主体的に対応する能力を育成する。 ・国際理解コースの魅力の発信に努め、地域社会や地元中学生に一層の理解を深める。 ・持続可能な開発目標であるSDGsの視点を踏まえた学びを推進する。 <p>②本校の歴史と伝統に誇りを持つとともに、規律を守る品性・品格ある生徒、行動力と思いやりを備えた将来社会のリーダーとなる生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルや交通モラル等の規範意識の確立を図り、自他の命を大切にする思いやりのある生徒を育てる。 ・学校行事、部活動やボランティア活動への積極参加を促し、統率力、協調性、粘り強さ、社会性を備えた人間力豊かな生徒を育てる。 ・国際理解教育や平和教育などをはじめとする特色ある本校行事の更なる充実に努める。 <p>③清潔で落ち着いた教育環境、安全・安心な学習支援体制を整備し、心身ともに健康な生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の充実に努めるとともに、スクールカウンセラーや関係機関との連携を図り、組織的かつ迅速に適切な指導及び支援を行う。 ・日常の清掃活動を通して高い衛生・環境意識を持たせる。 ・実践的な防災・減災教育に取り組むとともに、学校や地域の防災力に貢献できる防災リーダーの育成に努める。 <p>④効率的・効果的な業務遂行の機運を醸成し、教職員の多忙化解消を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的な業務遂行に向け、校務運営システムの活用を一層推進する。 ・学習や部活動における生徒の主体性をいかし、運営方針を遵守した部活動指導を行い、教職員の業務内容にメリハリを持たせる。 ・教職員の適切な管理等に関する指針を踏まえ、次なる時代に対応した業務の在り方と教職員の組織的な学校運営体制の確立を目指す。 		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
<p>広報活動 （総務部）</p>	<p>学校や地域の防災力に貢献できる防災リーダー育成の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に関する知識や防災活動のノウハウを学んだ生徒たちに、校内における普及活動を行う場を設ける ・広報活動を通して保護者への情報提供を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・五つ葉や生徒会とも連携を密にする。 ・防災訓練時などに、生徒から発表・報告を行わせ、校内における普及活動を行う。
<p>学習指導 （教務部）</p>	<p>新学習指導要領の研究と新教育課程の検討 成績処理システムと生徒指導要録の電子化等の研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科会で研究、検討したものを委員会でもとめる ・校内研修を通して流れを徹底する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「高校生のための学びの基礎診断」について研究する。 ・昨年度までの検討案を踏まえたうえで、問題点を検討する。 ・他分掌と連携し、より効率的で正確なシステムの構築をはかる。
<p>読書指導 （図書部）</p>	<p>「ひがしの図書館」に行けば、読みたい本が見つかるという生徒の信頼を得るべく、図書室からの情報発信に努める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・機会に即応した展示や、生徒の興味関心に合った講座を企画実施する ・生徒の視点に立った図書の選定、館内の整備を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に蔵書の稼働率アップの視点を持つ。
<p>研修 （研修部）</p>	<p>現職研修の精査と充実 ICT機器を効果的に利用した授業の研究 国際理解教育の推進と国際理解コースの活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他分掌と連携した現職研修を実施する ・学習の理解や定着の度合いが高まるようなICT機器の活用方法を模索する ・ニュージーランド語学研修やSDGs等の国際交流事業の充実に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・変わる大学入試に対応するなど、現状に応じて適切な現職研修を行う。 ・プロジェクター、スクリーン等を使いやすい環境を作る。 ・ホームページを利用し、活動の様子を周知する。 ・大学との連携を図る。
<p>生徒指導 （生徒指導部 生活担当）</p>	<p>交通事故の未然防止を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全指導の実施 ・ヒヤリマップ（本校での過去の事故例）のホームページへの掲示 ・交通安全講話等によつての啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通死亡事故ゼロの日、交通安全県民運動の期間の交差点等での指導 ・学期当初に重点的に安全指導 ・交通安全講話 ・時機を捉えての注意喚起
<p>生徒指導 （いじめ対策）</p>	<p>いじめの未然防止と早期発見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止 ・いじめの早期発見 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの実施と担任面接や日常の観察により未然防止と早期発見に努める。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
生徒会活動 (生徒指導部 特活担当)	生徒会行事の内容 検討と生徒会活動 の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会行事の内容検討と綿密な計画 生徒会活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 企画、準備、練習、本番の各段階で達成感や充実感を味わうことができるような体制をつくる。
進路指導 (進路指導部)	高大連携の強化と 共通テストへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ミスマッチのない大学選びに向けた高大連携事業の定着化 受験生の気持ちを大切にした進路指導 共通テストに向けた適切な情報提供と学習指導 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生のできるだけ多くの生徒に大学で学んだり研究したりする機会を与えたい。 生徒、保護者に進路に関する情報をできるだけ多く与え、生徒が本当にやりたいことは何かを考えさせた上で受験校を決めさせたい。 共通テストについて、正しい情報を適切に与え、指導につなげる。
保健活動 教育相談 (保健環境部)	心と身体の健康保 持増進	<ul style="list-style-type: none"> 自ら怪我予防につながる行動選択ができる生徒の育成(講習会、個別指導の実施) 産婦人科による健康講話の実施 特別支援教育に関する教職員の現職研修の実施 教育相談室の環境整備と活用 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動代表生徒に AED 講習会を実施し、緊急時に対応できるように指導する。 運動時における熱中症予防指導を意識した活動内容を計画できるように指導する。 スクールソーシャルワーカーによる特別支援教育に関する講習会を計画(教員対象)する。 教育相談室をさらに活用できる環境整備を行う。
1年学年会	東高生としての自 覚を持たせ、学習 ・部活動・行事に 積極的に取り組む 姿勢を育てる	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 良好な人間関係の育成 進路意識の向上 学習と部活動の両立 	<ul style="list-style-type: none"> 明るく大きく元気な挨拶をする習慣をつける。 期限や時間を厳守する姿勢、東高生としての品位、マナーを守る姿勢、奉仕の精神を養う。 授業中心の学習と家庭学習の習慣化で基礎基本を徹底して身につけさせる。 部活動や各種行事を通して広く豊かな人間関係を築かせ、学校生活の充実を図る。
2年学年会	規律ある高校生活 を充実 計画的な学習と学 力の定着 将来の目標を踏ま えた進路意識の向 上	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や身だしなみ、時間の厳守、スマートフォンの利用など自ら考え行動する 行事や部活動に積極的に参加し目標をもって全力で取り組む姿勢を育む 思考を深める適切な課題を与え家庭学習を促すとともに計画的な家庭学習を定着させる 将来の人生設計を適切に支援し、より高い進路目標が設定できるように意識を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒が年間を通して担任と面接や相談が受けられる環境をつくる。 指示を与えるだけでなく、自ら考え行動するような指示により統率力と協調性、社会性を育み主体的に行動するように促す。 予習→授業→復習のサイクルを定着させて授業を充実させるとともに、授業外学習への積極的な参加と、学習内容の疑問点が質問できるまで学習を深めるように促す。
3年学年会	進路目標の実現 たくましく生きる 生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習時間調査の継続的な実施 面接指導の充実 学習指導の充実 最高学年としての自覚の促進 主体的な行動を促す機会の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が年間を通して担任面接と進路相談を受けられる環境を作る。 予習・授業・復習のサイクルの継続を徹底することで授業の充実を図るとともに、業後課外や学習会への積極的な参加を促す。 教師や友人からの指示を待つだけでなく、自ら考え、主体的に行動するように促す。 HRや学年集会を通し各行事への積極的な参加を促し統率力、協調性、社会性を育成する。
職員の健康保 持 (衛生委員会)	勤務時間の適正な 管理 教職員の健康障害 防止とメンタルヘル ス保持	<ul style="list-style-type: none"> 業務の適正化と多忙化解消 学校開錠時間及び施錠時間の遵守 	<ul style="list-style-type: none"> 在校時間等の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともに、ストレスチェックの結果の活用や高ストレス者に対する医師の面談指導を通じて教職員の確実、適切なメンタルヘルスの保持に努める。 学校開錠時間、施錠時間の遵守に努める。
学校関係者評価を実施 する主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ①本校の各コースの教育内容の一層の充実と魅力の発信 ②高大接続改革における新たな大学入学者選抜の研究と指導改善 ③持続可能な開発目標である SDGs の視点を踏まえた学びの推進 ④学校や地域の防災力に貢献できる防災リーダーの育成 ⑤校務運営システムの活用の推進と、教育職員の適切な管理等に関する指針を踏まえた働き方の推進 		